小諸市与良(よら)地区「俳句の里」ものがたり

俳句の種を蒔いた、高濱虚子

与良は、小諸城下町の一番東に位置する地区で、街道には古い町並み、山側に一歩入るとのどかな田園風景が広がっています。

信州の山並みの見渡せる棚田は、島崎藤村も好んで足を運んだ場所です。

太平洋戦争中、俳人高濱虚子は五女晴子と親交のあった与良の小山榮一さんをたより、約三年間、娘とともに疎開していました。

すでに俳人として地位のあった虚子ですが、山国の自然の美しさや厳しさ、人情のあたたかさに触れたことで、新たな境地を感じさせるような俳句がたくさん生まれました。この間、県内外の俳人が与良を訪れたり、地元の方たちを主体とした句会が開かれたりするなど、小諸に俳句の種がまかれました。

高濱虚子
(たかはまきょし)

奥/市立高濱虚子記念館前/虚子庵

与良館の「俳小屋」と水芭蕉

「虚子の散歩道」とゆかりの施設

虚子が暮らしていた家は、現在「虚子庵」として移築公開されており、その隣には立派な「市立小諸高濱虚子記念館」が建てられて虚子にかかわる資料が展示されています。

二軒隣の虚子ゆかりの商家「松屋」は、公共施設「与良館」として再生され、地元の皆さんの憩いの場となっています。庭には虚子が句会を開いた俳小屋も再現されています。

また虚子が好んだという野の道は、「虚子の散歩道」として案内され、棚田は「俳句たんぼ」として守られています。

平成21年から始まった「こもろ・日盛俳句祭」は、毎年４００人もが集まり、市内の会場で吟行(歩いて句を詠む)と句会を開き、俳句をする方が自由に交流する場として他にはない催しとなっています。

これも虚子の志を継ぐものと思います。

「俳句の里」のこれから

このような与良の施設や風景の維持も、全国的な催しも、かかわる方が高齢化してきて、今後はどこまで続けられるかわかりません。

なんとか若い方たちに、俳句の魅力や与良の風景・施設の価値を知っていただき、うまく活かしていただけないかというのが、「俳句の里づくり」プロジェクトの目指すところです。

どうぞよろしくお願いいたします！

俳句の里づくりの夢

季語のある風景は、季節感豊かな日本の暮らしの原風景です。

俳句を楽しむ人が増える

▼

仕事おこしとしてやってみたい若い人を探す

風景づくりも交流体験プログラムにできないかな？

俳句体験、カフェなどに活用できないかな？

「虚子の散歩道」と与良案内